

令和 5 年度第 3 回佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会 議事録

場所：佐世保市役所 5 階 庁議室
日時：令和 6 年 2 月 21 日（水）14:00～15:30

《1. 開会》

（事務局：杉本）

それでは、ただいまから令和 5 年度第 3 回佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会を開催いたします。

本日はお忙しい中にお集まりいただきましてありがとうございます。
私は、本協議会事務局長の杉本と申しますよろしくお願ひいたします。

【資料の確認】

協議会の開催にあたり、会議の成立要件の確認でございます。

協議会規約第 7 条第 2 項に、「構成員の過半数以上の出席により成立する」とございます。

本日は委員 26 名のうち、代理出席も含めまして 23 名のご出席をいただき、協議会の成立要件を満たしていることをご報告いたします。

さらに本日は、次期地域公共交通計画の策定に係る調査委託事業者である、株式会社日本総合研究所からもご担当者の方にご出席をいただいております。

それでは、本日の議題でございますが、お手元の会次第にありますように 5 項目の議題を用意しております。

皆様からのご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の会議は、協議会規約第 7 条第 4 項に基づいて公開とさせていただいておりますので、ご了承いただきますようお願ひいたします。

それでは協議会を開催するにあたりまして、初めに本協議会の会長であります佐世保市の宮島市長がご挨拶申し上げます。

《2. 会長挨拶》

（宮島会長）

本日は、大変お忙しい中、また、お足元の悪い中にも関わらず、「令和 5 年度第 3 回佐世保

市・佐々町地域公共交通活性化協議会」へご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、平素から本市の市政推進に温かいご理解とご協力を賜り、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

委員の皆様方には、日頃から地域公共交通の維持活性化、利便性向上のために様々な協議を行っていただいており、これまでの取り組みに対するご支援・ご協力に心から感謝を申し上げます。

また、公共交通事業者におかれましては、慢性的な運転士不足への対応や物価・燃料高騰による輸送コストの増加など、経営状況が大変厳しい中、地域住民の足としての使命を果たすために運行の維持にご尽力をいただいており、感謝とお労いを申し上げる次第でございます。

本協議会においては、令和7年度にスタートを予定している次期地域公共交通計画策定のため、「佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会」として新たな協議体制を構築し、計画策定のための調査委託業者も決定したところでございます。

本協議会としましては、昨年5月に「佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会」として新たな協議会体制を構築し、令和7年度にスタートを予定している「次期地域公共交通計画策定」に向け、調査・検討等の準備を進めてきたところでございます。

本日は、令和6年度予算や次期地域公共交通計画の素案の中間報告等について、皆様からの忌憚のないご意見を賜り、今後の公共交通の利便性向上を目指していきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願ひを申し上げます。

結びになりますが、季節の変わり目でございますので、委員の皆様方にはくれぐれもお体を大事に、ますますのご活躍を心から祈念を申し上げまして、冒頭のごあいさつとさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(事務局：杉本)

ありがとうございました。

それでは、ここからは宮島会長に議事進行をお願いしたいと思います。

会長よろしくお願ひいたします。

《3. 議題》

(宮島会長)

それでは私が議事の進行をさせていただきます。

お手元の会次第に沿って進めて参ります。
まずは会次第の3つ目でございますが、本日の議題の1番目として
(1) 令和6年度予算について
事務局から説明をお願いします。

(事務局：藤下)

※令和6年度予算について（省略）

(宮島会長)

はい。ただいま令和6年度予算について説明がございました。
何か意見・ご質問等はございませんか。

《質問・意見等なし》

(宮島会長)

次期地域公共交通計画素案の中間報告について
事務局から説明をお願いします。

(事務局：吉永)

※次期地域公共交通計画素案の中間報告について（省略）

(日本総合研究所：松村)

※次期地域公共交通計画素案の中間報告について（省略）

(宮島会長)

ただいまのご説明につきまして、ご意見・ご質問はございませんか。

○(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

具体的なことをここで質問して、答えていただけるのか分かりませんが、一応質問させて
いただいてよろしいでしょうか。

資料2の21ページの「公共交通を取り巻く環境変化等について」の文章ですが、3行目の
「また、15歳未満の年少人口比率は17年に10.8%まで減少すると予想されている。」

これは、佐々町と佐世保市の合計となっていますが、佐々町と佐世保市の具体的な数値を
教えていただきたいというのと、あと全国に比べると数値の比較も教えていただきたいと思
います。

それと、3人に1人が高齢者になるという予想をされるのは、もうどうしようもないこと
だと思いますが、少子化対策というのを佐世保市としてどう思われているのか。

この数値を変えられるぐらいの佐世保市は施策を持っていらっしゃるのか。
具体的に教えていただきたいと思います。

(日本総合研究所：松村)

佐世保市と佐々町の内訳等のご質問ですが、今すぐデータが出てこないので改めてお知らせさせていただくことでよろしいでしょうか。

(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

はい。ありがとうございます。

全国に比べての数値は分かりますか。

(日本総合研究所：松村)

すみません。それも含めて整理をした上でお伝えできればと思います。

(事務局長：杉本)

先ほど委員から人口減少対策についてどういう考え方かということで、この場では企画部の方で総括してお答えしたいと思います。

我々佐世保市においても、昨年末に社人研で出された推計人口は、全国的には5年前の推計から比べると緩和の傾向があるという風にデータが出ておりましたが、長崎県においては、むしろ加速しているような状況です。

おおよそ10年ぐらい前倒しで人口減少が進んでいるという状況が分かっております。

佐世保市において見れば、人口減少に起因するものとしては、出生率いわゆる自然増が少なくなるということがあります、この自然増の関係については、中核市の中では一番出生率が高いところでございます。

ただ、今後もそこをより高めていくことが必要かという風に思っています。

一番の原因は社会減の部分でございます。いわゆる若者の転出が多く見受けられます。

こうしたことからどういった対策をしていくのかということについては、昨日、来年度予算の表明の中でも、自然増対策、或いは社会増減対策として幾つか予算も計上させていただいておりますが、こういった人口減少対策については、どれをすれば確実に上がるというような決定打はございません。

そうした意味で我々としては、来年度、この自然増、或いは社会増減に対し検討するプロジェクト会議を府内に設けまして、その中で、様々なデータ分析、エビデンスに基づいた対策を検討しながら進めていきたいという風に考えております。

大変簡単でございますが、以上の考え方で進めているところでございます。

(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

ありがとうございます。

市長からも少子化対策についてお願ひします。

(宮島会長)

ただいま企画部長から話もございましたが、先日、定例会を行いまして令和6年度の予算について、私が市長就任して初めての当初予算でございましたが説明をさせていただきました。

その中でも、かねてから私は、人口減少対策が本市にとりましての最重要課題という風に捉えておりまして、中でも、子育て支援というものを1丁目1番地という政策に掲げて、今取り組みを進めてきたところでもございます。

具体的な中身といたしましては、中学校3年生の給食の無償化、また1、2歳児の第2子以降の保育料の無償化、不妊治療に対する支援、産前産後の育児支援というものを掲げながら、ひとつの子育てパッケージというものをお示しし予算化をして新年度に推進をしていきたいという風に考えております。

もちろん、子育て支援だけではなく教育の充実や、もう一方ではやはり若い皆さん方が働く場所を作っていく必要がありますので、経済活性化というのも一方で行っていきたいという風に考えております。

そういう意味では、この人口減少対策というのは、一朝一夕ではいかないということは、もうこれは自明であります、まさに今国の方でも2030年までがラストチャンスという風に捉えられながら、この人口減少対策、或いは次元の少子化対策にも取り組んでいただいておりますので、これからも国、或いは県と連動しながら、本市といたしましても、また佐々町の皆様方ともご協力をしながらこうした対策に努めていきたいという風に考えております。

以上です。

(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

ありがとうございました。

(宮島会長)

他にございませんか。

○ (九州運輸局交通政策部：鈴木委員)

九州運輸局交通企画課の鈴木と申します。

ご報告ありがとうございます。

今後、次期地域公共交通計画の素案の作成や来年度の計画の内容について、この協議会を含めて議論をするということですので、それに向けてのコメントを一点だけさせていただければと思っております。

こちらの地域公共交通計画については、全国で各自治体において作成いただいていて、今年度末においては約1,200件の計画が作成される見込みであるということでございます。

他地域の公共交通計画を見てみると、中には、例えば現状分析と比べて今後の公共交通の方針や今後取り組むべき施策について、分量の面であったり具体性の面でも薄いような計画だったりとか、或いは、その現状分析との連携が、今後取り組む公共交通の方向性や、施策

というのが、現状分析の関連性が薄くて、いわゆる言い方は悪いですが、どの地域にも当てはまるような、コピペのような取り組みだったりそういうものののみがうたわれているような計画もあったりします。

今回、ご報告いただいた内容というものが、現状の分析だったり、或いはまちづくりの都市計画マスター・プラン等の内容も踏まえまして、かなり詳細に分析いただいているものという風に認識しておりますので、今後、調査結果も踏まえまして、今後の計画の素案だったり議論においては、現状分析やまちづくりの地域戦略の内容とも関連した中身で、具体的に佐世保市の実用に応じたオリジナルの今後取り組むべき公共交通の方向性や施策というものを計画に打ち込んでいくということが、今後の佐世保市・佐々町の公共交通の持続可能性維持という点で重要だと思っていますので、その点については、今後、留意いただきながら作成、議論、調整いただきたいという風に思っております。

また一方で、具体性というのも重要ですが、机上の空論といいますか、なかなか実現不可能な取り組みだったり、内容ばかりを書いていてもそれはそれで問題になるという風に思っていますので、例えば、交通事業者さんの運転者不足など実情に応じた実効性のある内容取り組みというのも、具体性とともに、そういう観点も踏まえながら、今後は策定いただきすることが必要になってくるかなという風に思っていますので、その点ご留意いただきたいという風に思っております。

以上です。

(宮島会長)

ありがとうございます。

事務局から何かありますか。

(事務局：吉永)

ありがとうございます。

まさに私たちも、まずは現状認識をしっかりとすることが大事であると思っています。

その上で将来予測というのもしっかりとしていくなければならないという風に思っています。

それともう1点、他の計画との整合、特に今回地域公共交通計画というのは、まちづくりそれから観光振興策、こういったところとの連携が非常に重視されているところがあります。

そういうまちづくりと交通、それから観光振興施策との連携も図る上で、今回、コンサルさんに調査していただいたところでいくと、2ページと5ページにそれぞれ佐世保市と佐々町の都市マスプランの都市の空間イメージが載っているかと思います。

これでいくと、佐々町という大きなエリアを考えると、これを佐世保地域の中に当てはめたときに、佐世保市の都市マスに載っている旧町と言われる小佐々町、鹿町町、江迎町などと同じような、佐世保市全体でいくと地域の核になるようなところかなと思っています。

それと佐々町の都市マスの中では、佐々駅が都市拠点ということで、ここは佐世保市エリアを含めた全体の中での大きな結節点になる部分ではなかろうかという風に思っています。

そういうところから、都市マスと交通の結節点というところを見たときに、先ほど人口の分布であったり I C カード利用のデータ乗降分析を見たときも、まさに、佐世保市のこの都市マスの大きな拠点間をつなぐ部分と、結節点になる部分というところの利用が非常に多いということと、その間の移動をしっかり確保していくということが、そういった計画とも整合するのかなというのが改めて確認できたものと思っています。

また、将来予測の中においては、人口減少以上に過去の調査の中では、バスに限らず鉄道もそうなんですが利用者の減少というのは進んでいます。

そういうところと、これまで以上に進んだ運転士不足はバスに限ったことではなくて、鉄道やタクシーについてもそうです。

そういったところが 28 ページの需要と供給のバランスが今後崩れていくようなところの対策をしっかりしていかないと、最低移動需要にも答えられないというようなことも明らかになっていますので、まさに国が考えていらっしゃる、これから公共交通のネットワークとしては、公共交通事業者のみならず色んな他業種分野との連携というのを、この計画の中でもしっかり検討していきたいと思っています。

それともう 1 点、実現可能な実効性のある施策ということで、まさに私たちも最終的な計画の絞り込み、それから、利便増進実施計画の中にその取り組みを落としていく中では、本当に、事業者さんや地域の協力の実現可能性で、できるかできないかというところもしっかり見ながら絞り込んでいくこととしていますが、現段階では、今考えられるあらゆる可能性を排除せずに、一旦挙げた上で議論をしていく。

できるためにどういうことが必要になってくるか、どういうことをやってもやはり無理なのか、そういった議論をしっかり重ねながら、実現可能性なものに絞り込んでいきたいという風に考えています。

ご意見ありがとうございました。

(宮島会長)

その他にございますか。

《質問等なし》

ないようですので次の議題に参ります。

(3) 令和 6 年 4 月 1 日バスダイヤ改正について
事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：藤下)

これについては、実施主体でございます西肥バスさまからご説明をいただきたいと思います。

西肥バスさま、よろしくお願ひいたします。

(西肥自動車：山口委員)

※「令和6年4月1日バスダイヤ改正について」概要を説明（省略）

(西肥自動車：井上部長)

※「令和6年4月1日バスダイヤ改正について」詳細を説明（省略）

(宮島会長)

はい。ただいま4月からのバスダイヤ改正等のご説明がございました。この件につきまして、何かご質問・ご意見等ございませんか。

○（長崎県交通運輸産業労働組合協議会：豊村代理）

労働組合からですが、「その他」のところで発言しようと思っておりましたが、かなり関連がありますので、今、コメントさせていただきます。

交運労協幹事の豊村と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

現在、公共交通機関に携わる運転士、整備士が全国レベルで非常に足りない状態でございます。

これは、不規則な労働時間、そして拘束労働時間の長さ、低賃金にあります。

これに加え、2024年4月から先ほど言われた改善基準告知の改正がございます。

中身については、ただいま西肥バスさんが説明したとおりでございますが、1日の拘束時間が16時間から15時間、そして1日の休息時間が8時間から9時間、継続して11時間以上を与えるように努めなければならないということなどがあります。

これは、運転士にとって労働時間の短縮はいいことなんですが、一方で、残業することができなくなり、今までの勤務時間を短縮しなければなりません。

例えば、バス事業者であるならば、法を守るために現在の勤務本数を先ほど言われたとおりカットしなければならない。

カットすれば、佐世保市民の足に迷惑がかかるることは当然ながら、運転士の給料減に繋がることから離職者が増えるといった状態になっていくと考えられます。

そうなると、運転士に合わせてまた勤務本数をカットする状態になり、厳しさに歯止めがかからない状態になっていきますし、現在に至っても、その繰り返しとなっている状況です。

佐世保市で働く労働組合の処遇改正も含めて、今後の佐世保市の公共交通機関をどうしていくのか、十分に企業と自治体の佐世保市でよく話し合いをしていただいて、これまで以上の労働者へ繋がる支援、そして援助をお願いしたいと思っています。

以上でございます。

(宮島会長)

ご意見ありがとうございます。

(事務局長：杉本)

今おっしゃったような取り巻く環境というのは非常に厳しいものがあるかという風に考

えております。

そうした運転士不足等々に対して、どのように対応するのかということも踏まえて、この活性化計画があるものという風に考えております。

最後のページには幾つかの提案もコンサルタントの方からされておりますので、関係各位、協議をさせていただきながら効果的な対策を打っていきたいなと考えております。

以上です。

(宮島会長)

他にございませんか。

○ (長崎県立大学 : 永井委員)

県立大学の永井と申します。

私からも、運転士不足についてご質問をさせていただきます。

これまでも運転士が不足をしている、また現在、働かれている運転士さんが高齢化しているというお話を聞いて参りました。

今回の資料3でもお示しいただいているとおり、昨年度からも減少が見込まれているということになっています。

これに対して、次年度に向けて新しい若い運転士さんが入ってきそうなのかという、採用状況などをお示しいただければ、少しでも希望が持てるような数字であるのかどうかも含めてご教示いただければと思います。

(西肥自動車 : 山口委員)

ご質問ありがとうございます。

西肥自動車の方で申し上げます。

先ほども申し上げたんですが、昨年3月末の退職が多かったので、当社での2月対比では5名の減少ということになっております。

昨年4月から新しい採用の先端の部署を設けまして、若い運転士さんと話もありましたが、今は高校を卒業して普通免許を取って1年後には二種免許の受験資格が得られますので、そういう方に向けて高校の進路指導の先生とかにお会いして、高校生の確保を図って、実際、3名ほど入ってこられています。

実際、2名乗車しているというような状況です。

それから、自衛隊の早期退職の方に向けての説明会を実施したり、あとWebで遠隔地の方とも面談もできるような感じで面接をして、昨年は北海道の十勝バスの方が入られたというような実績もあります。

去年は中国籍の方が1名入られました。

今年で言えば、22名採用で20名退職だったので2名増加で、足元では少し何とか検討しているという風な状況で、大型二種を持っている若い方も入ってこられている。

退職される方は、年齢が要因という方が半分ぐらいいらっしゃって、あとは転職で、目立

つのは運送事業者でトラック運転士に転職される方がいらっしゃって、私が知る限り同業他社に行かれた方は2名ぐらいというような状況です。

入ってこられる方も多いんですが、やはり定年で辞める方もいらっしゃって、その分をどうカバーするかというところに非常に苦慮をしている状況でございます。

以上です。

(させぼバス：松永委員)

させぼバスでございます。

させぼバスの状況につきましても、少しご説明したいと思います。

運転士の募集をしてもなかなか応募されないという状況が続いております。

その中で、私が昨年に確認就任してから各事業所へご挨拶に回っていますが、そもそも論として、させぼバスという会社をご存じない、西肥自動車と一緒にになったという風に考えておられる方がほとんどでございまして、これでは、募集しても当然応募がないという状況になっています。

2回続けて応募がございませんでしたので、今朝の長崎新聞にも大きく取り上げていただいておりますが、まずは当社の認知度を上げること、また、バスに触れていただく機会を作ることが最優先ということで考え、バス運転体験会というのを先週18日にさせていただきました。

おかげさまで予想よりも遥かに超えて、2倍の方の23名に乗車をいただきましたし、運転席の乗車体験も20名を超える方に来ていただいた。

まずはそういったところからやっていこうかなという風に思っています。

どうしても高齢化になってきておりますし、当社においては20代は1名しかおりません。

次が40代ということで、その中間層がいないので、その確保に努めたいということで取り組みをさせていただきます。

先ほど山口社長からありましたように、19歳から特例教習を受けることで、免許取得して乗務できることになっておりますが、特例教習を受ける場合も費用としては80万近くかかります。

そういう免許取得の費用を事業所の方で負担をすることもしていかないと、先ほどありましたように、給料が安い状況の中ではバス運転士になるという方々はいないという風に考えていますので、そういうところも対応しながらやっていかなければいけないと思っています。

まずはそういう取り組みからしていこうということで、今させていただいています。

今のところは残念ながら、新しく入る方はなかなか見いだせない状況でございます。

以上でございます。

(長崎県立大学：永井委員)

県北には大学・短大を含めて3つあると思います。

もちろん賃金の問題等もあると思いますが、ぜひ大学・短大の方にもリクルートをしてい

ただければ、県内で活躍したい、地域貢献したいという学生は一定数おりますので、ぜひそういう学生の将来の選択肢の1つとして、こういう公共交通の運転士が考えられるような機会があればなという風に思いますので、是非とも今後ともリクルートをよろしくお願ひいたします。

以上です。

(宮島会長)

ご意見ありがとうございます。

他にございませんか。

《《意見等なし》》

ないようでしたら、次の議題へ参ります。

(4) 第10回させぼ公共交通ふれあいフェスタについて
事務局から説明をお願いします。

(事務局：藤下)

※「第10回させぼ公共交通ふれあいフェスタについて」説明（省略）

(宮島会長)

はい。ただいまの説明についてご意見・ご質問等ございませんか。

○(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

させぼバスと西肥自動車にお聞きします。

公共交通ふれあいフェスタでPRをされるというのは素晴らしいことで、それが市民との距離を縮めるということで大切なことだと思います。

公共交通についてということで、利用する人も利用しない人もみんなで考える視点を持つのが大切だと思います。

そして、情報共有が大切だと思うんですが、バスの運転士さんが少ないとそういうのも市民に伝えていかないといけないことだと思います。

そうしないと減便になったら文句しか言わないので、私も多分、4月1日にバスダイヤ改正になったときに、「また減ったか」と思う。

誰もがいう公共交通なのにもかかわらず、何でどんどん減っていくのかというのが市民の立場からすると、ものすごく多いわけです。

私は、この会議に出てるので現状は知っていて、皆さんには口コミでお伝えはしますが、口コミでは限度がありますので、させぼバスさんも西肥自動車さんも、もちろん佐世保市もそうですが、先ほども言いましたが、みんなで考える視点を持つという部分の大切さを考え

るともっと情報共有をしないといけないと思います。

現在、このふれあいフェスタの他に何かされていることがありましたら具体的に教えていただければと思います。

(西肥自動車：山口委員)

お恥ずかしいですが、現状を市民の方に広く知らせるような積極的な活動は特に行っていないかなあという風に思います。

同業他社の事例を見ると、岡山に両備バスさんというのがあって、ここは我々と規模も大きく異なっておるんですが、ラッピングと言うんですが、バスの車体に非常に目立つ大きな字で、「バスの現状は崖っぷちです」とか、そういう表示をされて危機感を募ったり、島原鉄道さんは、赤字に引っかけて赤字のグッズを作ったりされておられるので、委員がおっしゃるように、現状を知っていただくようなことを、例えば、マスコミに対する投げ込みなどをやっていかないといけないと思います。

あと、行政とか商工会議所さんとかとタイアップしながら、例えば、公共交通の利用を促進していただくためのマイカーをできるだけ抑制して、夜、ナイトエコノミーを活用した上でバスで帰りましょうとか、今はジャストアイデアですが、そういう活動をしていかないといけないのかなと考えています。

委員のご質問の回答としては、「すみません。特にやっておりません。」というところが率直な回答ではないかと思います。

以上です。

(させぼバス：松永委員)

させぼバスにおいても、積極的にこういう状況ですよということを発信することはやっておりません。

ただ先ほど言いましたように、当社の認知度、また、バスに触れ合う機会を作るということで体験会等を行いました。

やはりそういうことを行うことで、バスの運転士が不足していて非常に厳しいんですよというところの発信はできているのかなと思っています。

ですから、今後もさらにそういうことをしていかなければいけないと思いますし、そういうことをPRするのには、例えば、長崎市では無料で1日乗車するという取り組みを起こされていますが、やはり、多くの方にバスを利用していただくことを告知するようなものも、当然事業者だけではできませんので、佐世保市の協力をいただくなどしながらやっていくことも1つの方法かなと思っています。

我々は減少しているというよりも、運転士を確保するのに必死でございまして、そちらの方に今注力しているということでご理解いただきたいと思います。

(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

すみません。何もしていないということを言わせてしまったという是有るんですが、も

うここまで危機感を煽るというか危機感を伝えるというのも大切なんですが、本当にバスに対してここまで危機があるのであれば、もう少しイメージアップという風に身近に感じるという部分のことをしていただかないと、例えば、佐世保市の小学校で行く修学旅行や遠足のバスは、西肥バスさんかさせばバスさんに乗って行くことを当たり前にしていると思ってたんですが、実は、佐世保市の某学校では、松浦市からのバスが来てたよというのを聞いたときに、それさえもできていないのかと、それだと子どもも親しみが湧くはずはないよねという話をお母さん方としたことがあります。

もう少し、この公共交通を身近に感じることを、佐世保市とタイアップしてももちろんいいと思いますが、お金をかけなくてもできることをしていただけたらいいなと思います。

市民の代表としてお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局：吉永)

ご意見ありがとうございます。

今の公共交通を取り巻く現状をしっかり市民に伝えていく役割というのは、やはり我々行政の方が担うところが大きいものという風に考えています。

これまでも計画を策定した折、直近では、平成4年からスタートした今の持続実施計画の策定のときと、それから、3年計画で作ったものの現状変化が激しい中で、その1年後に変更計画としてまた減便をしました。

そういう計画策定や変更の折々にその都度今の現状というのは、計画の中でも示しながらホームページ等にも載せながら知らせてきたという経緯はあります。

もちろんそれは議会にもご説明しながらということではあるんですが、なかなかそれだけでは市民全体にも伝わる情報量としては少ないのかなと思っています。

先ほどご提案がありましたような、このフェスタ等のイベントの中でも、例えば、市の行政の取り組みとして、バス路線等がなくなつて不便な地域に対して、デマンドタクシー等の不便地区対策の取り組み等をやっていますが、こういう取り組みについては、パネル展示等をしながら周知をしています。

しかし、今ご意見がありましたような、今の現状がどうなのか、それから将来的な動向をどう予測しているのか、まさに今回の計画の中でもそういう整理が出てきますので、そのような情報を色々な機会を使って周知に努めていきたいと思っています。

それと、今後の利用増進策についても我々も少し悩ましいところがあるんですが、今の特に通勤通学の時間帯のバスが減便等によって乗車率が非常に高まっています。

仮に今の集中する時間帯での乗車率が上がると、実は、令和4年度に今の持続化実施計画をスタートしたときに大きな減便によって積み残しが発生しています。

そういうところで、さらに便数が減った中で、一方で大きな利用増進がもしかったときには、そういう積み残しが出るということを予測した中で、どういう風な運行体系が取れるのか、その上で利用増進というのを図っていかなければ、逆にまた積み残しによって市民のサービスが低下してイメージも悪くなるというところがありますので、そういうところも含めて考えていきたいと思っています。

これから議論の中で、そういうご意見もいただければと思います。
ありがとうございました。

○ (佐世保市商店街連合会：竹本委員)

今までやっていたことで先ほどもお話がありましたが、ラッピングバスをもっともっと一般の皆様に、例えば、子供たちに描かせるバスとか、要するに乗りたいバスで、私が描いたバスとかそういうのが話題になるようなバスを作られたらどうなのかなと思います。

それこそ今から 10 年以上前の 100 周年のときに「100 年号」ということで、バスの片方に YOSAKOI、もう片方が九十九島というラッピングバスを出しましたが、九州・全国すべてのところですごい話題になったバスもありまして、乗っている方も誇らしげに乗っていたという思いがございます。

それともう 1 点、「させぼ公共交通ふれあいフェスタ」が開催されていますが、その相前後に YOSAKOI させぼ祭りが駅前会場であります。

そこで、演舞の時間と合わせた場所をうまい具合に使い合って、そちらのお客も引っ張り込んで、共同イベントみたいな感じで使われたらどうなんだろうと思う。

これは、お互いに前向きに打ち合わせをしていくと、それは可能なことではないかなとすごく感じます。

以上です。

(宮島会長)

ご意見ありがとうございます。
他にございませんか。

《質問等なし》

ないようですので、次の議題へ参ります。

(5) 地域公共交通調査事業における事業評価について
事務局から説明をお願いします。

(事務局：藤下)

※「地域公共交通調査事業における事業評価について」説明（省略）

(宮島会長)

はい。ありがとうございました。
ただいまの説明について、ご意見・ご質問等ございませんか。

《質問等なし》

ないようですので、以上で議題は終了させていただきます。

《4. その他》

「その他」のところで、事務局から何かござりますか。

(事務局：杉本)

事務局からはございません。

(宮島会長)

その他、委員の皆様からご意見やご質問等はございませんか。

《ご意見等なし》

ないようですので、次に進みます。

本日は、オブザーバーとしまして国土交通省九州運輸局からご参加をいただいております。

先ほど、鈴木委員からもお話、ご意見がございましたが、何か他にご意見などございませんか。

(国土交通省九州運輸局交通政策部：鈴木委員)

九州運輸局交通企画課の鈴木でございます。

最後に1点だけ、ご紹介も含めてコメントさせていただければと思います。

本日は様々な議題でご議論いただいたものと認識しております。

その中で、次期公共交通計画の中での施策というところで、例えば、バスだったり鉄道のモード間の連携だったり、或いは交通事業者と医療などの他の分野との連携などについても話があったのかなという風に思っております。

我々国土交通省としては、地域公共交通の維持活性化という観点から、3つの共創というところを推進しております、官民の連携や交通事業者間の連携、交通事業者との分野の連携というところを推進しているところでございます。

こうした共創の取り組みによって、地域公共交通や地域の課題の解決に資するような交通の取り組みというものを、「共創・MaaS 実証プロジェクト」という補助メニューで支援をさせていただいているところでございます。

来年度も同じように、この共創プロジェクトといわれる補助メニューがございますが、具体的にその補助事業の公募というものが、2月下旬以降で早ければ来週から公募を開始する予定にしております。

具体的な内容等については適宜、自治体の皆様、交通事業者の皆様に情報提供をさせていただきたいと思っておりますが、今後の取り組みを検討される場合においては、ぜひ、そ

といった「共創・MaaS 実証プロジェクト」以外の自動運転、或いはその人材確保のための二種免許取得の支援だったり、採用活動の取り組みに対する支援メニューなど様々な補助メニューがありますので、隨時ご検討いただきつつ、運輸局、長崎運輸支局にもご相談いただきながら、最大限にご活用いただければと思っているところでございます。

私からは以上でございます。

(宮島会長)

貴重なお話ありがとうございます。

今後とも持続可能な公共交通を実現するため、ご助言やご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日予定しておりました議題については、終了いたします。

本日は、お忙しい中ご参加をいただきまして本当にありがとうございます。

私からは以上です。

事務局へお返しします。

(事務局：杉本)

本日は、大変ご熱心にご議論いただきましてありがとうございます。

本日いただいたご意見を参考に、来年度からの詳細な検討に入っていきたいなという思いますし、国からご提案いただきました新しい補助メニューの活用についても検討を深めて参りたいと思っております。

ありがとうございます。

それではこれをもちまして、本日の令和5年度第3回佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

(終了)